

人間の世に産み、自然の理考へ得ないものだらうか。自然の理考へ得ないものだらうか。

日本は、今や世界に大文化の移住不可能とするならば、移民の制限も禁止し理由ありとするも、其の實は全くそれに反し、且つ、壯大であり、珍奇である上にそれ色と全く合致し、如何なる畫伯が描いても、斯くは自然の妙趣を現はし得まい、さ云ふところに特色を有してゐる。

## 一年振りで リオを見た感

南鳩生

アルゼンチンの首都であり、アラウ

ル・カルグリの市街であると云ふより

は、その勝れたる景色が如何にも

壯大であり、珍奇である上にそれ

に加へて人爲的工夫が自然の大景

色と全く合致し、如何なる畫伯が

描いても、斯くは自然の妙趣を現

はし得まい、さ云ふところに特色を有してゐる。

先達の予は、我が經濟使節一行

を訪ねて、一年振りでリオ

を見たのであるが、此の度の

リオ、季節がアラウルの初冬で

あつて暑からず寒からず、それに

好天氣に恵まれたが爲め座塙一

へ起す、遊ぶ者、さながら塙中の

人たる感を禁じ得なかつたので

ある。殊に使節一行が渾身口に迎

はる月日は、正に極に至つて朝霧全

く晴れ、船の入港に運河日和とな

つたので、出迎へる人々は誰れ語

るゝ、天亦、遠來の日本使節

節が近づく爲め、今日の日和を日

本晴れたらしめたのだ、さ云ふの

であつた。

ところが、一行を乗せたる船の

入港時間が、午後二時といふのが

分まつたので、五時が更に五時四十

分まつたので、太陽は全く西に

落ち、リオの港内は薄暮を報れる

が如く、視界を絶ちしめたのであ

つたが、此の時分から離き出した

陸上及び艦船の電燈は大然と合

し、リオの港内が渾然一幅の

繪画となり、予の曾つて見たこ

の夕景が生かは、天と人

が如く、物事な廣いものであ

つたが、此の瞬間に予の頭脳な

が如く、物事な廣いものであつた

が、此の瞬間に予の頭脳な

が如





